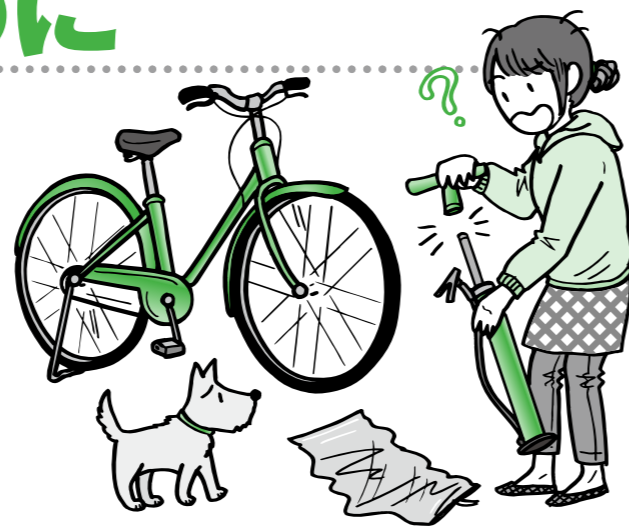


事故を防ぐために

① 袋に入って販売されているものが多く、店頭では不具合を確認できません。購入後はすぐに各部に緩みや亀裂等がないかを確認するとともに、正常に空気が入るか確認しましょう。

② 事故防止のため使用前には毎回必ず握り、キャップ、シリンダ本体など各部に緩みなどの異状がないかを確認しましょう。



③ 握りを押し下げるための力が極端に大きい場合は、蓄圧タンクが外れて飛び出す危険を回避するため、無理に空気を入れないようにしましょう。

④ 保管場所は取扱方法の表示に従い、雨ざらしや直射日光が当たる場所を避けましょう。



テストの結果を踏まえ、業界へ以下の要望をしました

- 初期不具合をなくすよう品質管理の徹底を要望します。
- 台座～ピストンロッド間の結合について強度の確保を要望します。
- 使用中にキャップが緩むことのないように改善を要望します。
- 蓄圧タンクが外れて飛び出すことがないような構造を要望します。
- 本体に使用前点検、保管場所、電話番号を含めた連絡先を表示するよう要望します。

● 本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

● 本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページの「報道発表資料」コーナーに掲載しています。

http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20061006_1.html

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、協力病院等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。
 特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。
 商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。
 無断転載はお断りいたします。



独立行政法人
国民生活センター

〒108-8602 東京都港区高輪 3-13-22 TEL.03(3443)1793 ● 2007年2月発行

デザイン=花村デザイン事務所
 イラスト=ヒラヤマ ミワ

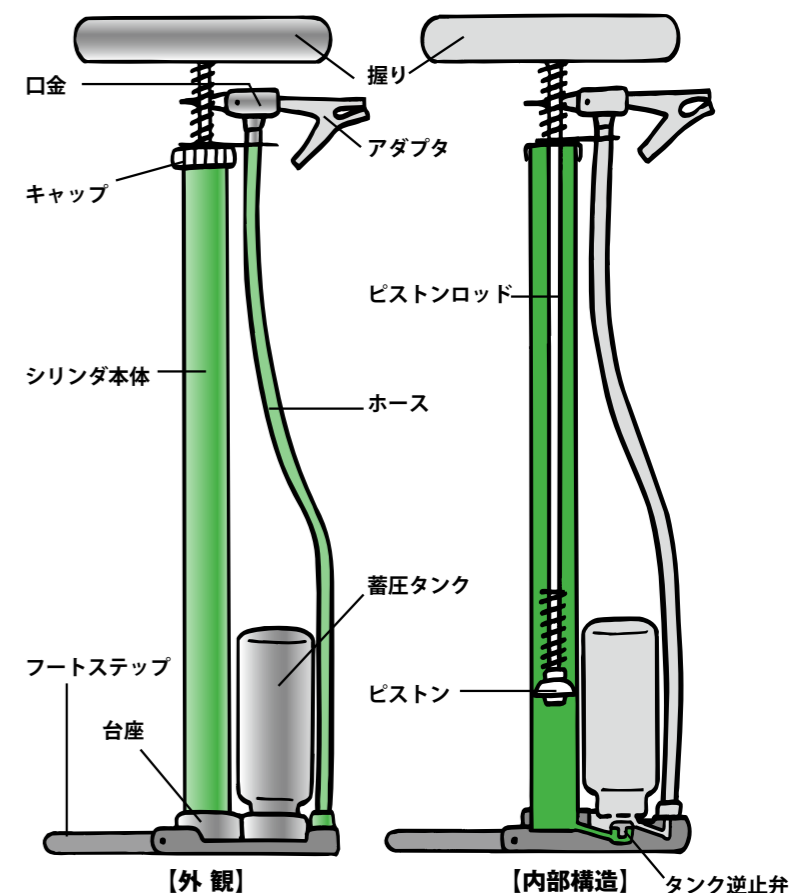
くらしの危険 Number 277

自転車用空気入れの安全性

国民生活センター危害情報システムには、自転車用空気入れ(以下単に「空気入れ」と呼ぶ)を使用中に、けがをしたなどの事故情報が寄せられています。最も普及しているフットポンプタイプ(握りを垂直に押し下ろすタイプ:下図参照)での事故が多く、「柄の部分折れて転倒しけがをした」「初めて使用したところ、取っ手が抜けて膝を8針縫った」など、いずれも部品が折れたり外れたりすることにより、骨折などの重傷となる事故が起っています。



● 図: フットポンプタイプの空気入れの構造及び各部の名称



こんな事故が起きています

主な事故形態別にみると!

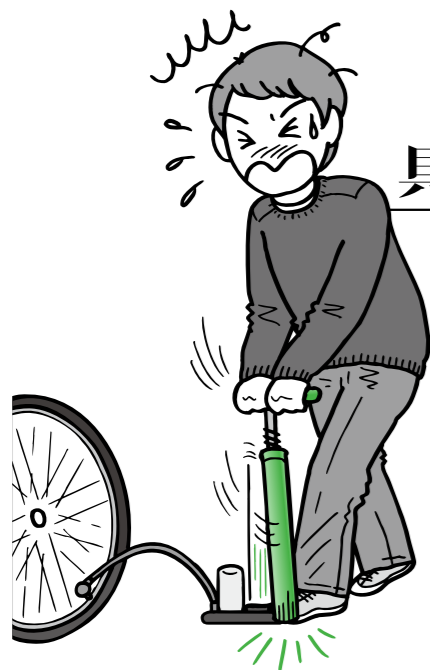
ケース1 握りの押し下げ時に握りが破損し、空気圧により押し戻されたピストンロッドや破片により顔面付近を負傷、又は転倒して負傷した。

ケース2 シリンダ本体からキャップが外れ、跳ね上がったキャップが手に当たる、又はシリンダ本体とキャップに手を挟まれた状態で握りを押し下げて負傷した。

ケース3 台座からシリンダ本体が外れ、握りを押し下げたときに外れたシリンダ本体の先端が足の指や甲に当たって負傷した。

ケース4 蓄圧タンクが外れて飛び、身体に当たって負傷した。

具体的な事故事例をみると!



事例1 シリンダ本体が台座から外れ、シリンダ本体の先端が足の親指に刺さり切断した。

事例2 使用中に筒が外れて、夫が腕を5針縫う怪我をした。

事例3 途中で空気が入らず空気入れのタンクが飛んで顔面直撃を受けて歯が折れた。



自転車用空気入れの安全性についてテストしました



国民生活センターでは、2006年6月～8月にかけて、大手スーパー、ホームセンター、自転車専門店で販売されていたフットポンプタイプの空気入れ22銘柄について、強度や継続使用したときの不具合、万一不具合が発生した場合の危険性についてテストを行いました。

1. 初期不具合

● 22銘柄の空気入れを15台ずつ購入したところ、購入時から13銘柄に何らかの初期不具合がありました。

2. 強度テスト

● JIS規格に規定された「握りを押し下げたときの強度」及び「握りとピストンロッドとの結合強度」は全銘柄とも基準を満たしていましたが、JIS規格に規定されていない台座～ピストンロッドの間の結合強度は比較的弱いものがありました。

3. 継続使用テスト

● 継続使用中の20銘柄に不具合が発生し、このうち容易に修繕できない不具合が8銘柄、修繕できる不具合のうちキャップの緩みが15銘柄、握りの緩みが10銘柄に見られました。

4. 表示

● 本体の表示を調べたところ、本体に製造者や販売者等の住所又は電話番号が記載されていたのは8銘柄だけでした。なお、使用前点検については11銘柄、保管場所については14銘柄に何らかの記載がありました。

● このテストの詳細は、(独)国民生活センターホームページ報道発表資料「自転車用空気入れの安全性」でみることができます。また、「たしかなく」2006年11月号では、わかりやすく銘柄写真付でこのテスト結果を紹介しています。